

2020 年度 第 1 回 7 月 名 大 本 番 レベル 模 試 地 理 採 点 基 準

**1 単答記述問題**

誤字，脱字，漢字間違いは 0 点。

**2 論述問題**

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

**3 共通減点基準**

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは 1 点減点。
- ② 下線の付け忘れは 1 点減点。
- ③ 指定用語不使用は，指定用語 1 つにつき 1 点減点。  
(解答中のどこかで使用していればよい。  
加点ポイントの脱落による減点がある場合は，それ以上の減点は不要。)
- ④ 字数オーバーは 1 点減点。

\*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇔スロベニア，パキスタン⇔パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は 0 点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

**4 採点記号について**

- 1. <□□□□> 加点ポイント
- 2. □□□□× 事実に誤認あり
- 3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

**5 設問別加点基準**

- 1) \_\_\_\_\_ 部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○/△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。
- 4) 「 A 」が「 B 」→1 点 は、「 A 」と「 B 」の両方の要素があれば 1 点加点する。

問題 I (50 点)

問 1 6 点 (各 2 点×3)

図 1 : ペキン/北京 図 2 : ロンドン 図 3 : ブラジリア

問 2 4 点 (各 2 点×2)

8 時 30 分 : か 20 時 30 分 : あ

問 3 <正射図法の図> 2 点 図 3

問 3 <理由> 8 点

正射図法は周縁部でひずみが大きくなるので、球面の中央付近を通る経緯線を等間隔で区切った線は、中央部で長く、周縁部で短く描かれる。b は a + c, e は d + f と同程度の長さであるが、h は g + i よりも明らかに長いので、図 3 と判断できる。

**【加点ポイント】**

★<正射図法の図>の「図 3」を正解していることを加点の前提とする

- |                         |             |
|-------------------------|-------------|
| ① 正射図法は周縁部でひずみが大きくなる    | } いずれかで 4 点 |
| ② 正射図法の経緯線は周縁部ほど間隔が狭くなる |             |
| ③ 正距方位図法は中心からの距離が正距となる  |             |

⑤ h は g + i よりも長い ので 図 3 は正射図法である

④ b は a + c, e は d + f と同程度の長さである ので 図 1 と図 2 は正距方位図法である

⑤ b は a + c, e は d + f と同程度の長さである ので 図 1 と図 2 は正射図法ではない

} ↓  
いずれかで 4 点

問4 10点

Pは沖合の寒流の影響で降水量が少なくなる低緯度西岸に形成された海岸砂漠である。Qは年中中緯度高圧帯に覆われる南回帰線付近に形成された回帰線砂漠である。Rは水蒸気の供給源の海域から離れた大陸の中央部に位置する内陸砂漠である。

【加点ポイント】(①+②+③で10点まで)

- ① (Pについて) 寒流の影響で降水量が少なくなる  
    / 寒流により気温の逆転が起き大気が安定する →4点  
    (※「海岸砂漠である」のみ →1点)
- ② (Qについて) 年中中緯度高圧帯に覆われる  
    / 年中亜熱帯高圧帯に覆われる →4点  
    (※「回帰線砂漠/亜熱帯砂漠である」のみ →1点)
- ③ (Rについて) 大陸の中央部に位置し水蒸気が供給されない  
    / 隔海度が高いため湿度が低い →4点  
    (※「内陸砂漠である」のみ →1点)

問5 10点

二酸化炭素濃度は、長期的に増加しており、植物の活動によって季節変化がある(カ)である。全降下塵重量は、火山噴火等の突発的な変動が大きく認められる(ク)である。降水のpHは、縦軸の中央が中性なのでグラフ領域の下半分の酸性側に描かれている(キ)である。

【加点ポイント】(※②③は①の加点、⑤は④の加点、⑦は⑥の加点を前提とする)

- ① (カ)は二酸化炭素濃度である →1点
- ② (①の理由) 季節変化がある／植物の光合成量が多い夏は少ない  
／植物の光合成量が少ない冬は多い →2点
- ③ (①の理由) 長期的に増加している／増加傾向である →1点
- ④ (キ)は降水のpHである →1点
- ⑤ (④の理由) グラフ領域の下半分に描かれている  
／縦軸の中央が中性なので、それより低い値をとる  
／他の2つに比べ変動が少ない →2点
- ⑥ (ク)は全降下塵重量である →1点
- ⑦ (⑥の理由) 火山噴火等の突発的な変動が大きい／火山灰等による不規則な変動である  
／黄砂の多くなる冬に多い →2点

問6 10点

両河川の流域は、桜島火山の山麓に位置しているので、降下火山灰が豪雨等で流下する火山泥流の常襲地域である。野尻川では、上流に堰の記号で示される砂防ダムが複数設置されて泥流の勢いを弱めながら、中下流部の流路を堤防で固定して海に流している。持木川では、上流部に複数の砂防ダムを設置するとともに、中流部の霞堤で泥流を山腹にあふれさせて弱めながら、下流部の堤防で海に流している。

【加点ポイント】

- ① (共通の災害の特徴) 火山泥流／火山灰が豪雨により泥流となる →2点
- ② (野尻川流域の対策) 砂防ダムを設置／堰で泥流を弱める →2点
- ③ (野尻川流域の対策) 下流は堤防を設置／河口に盛土をして堤防にしている →1点
- ④ (持木川流域の対策) 砂防ダムを設置／堰で泥流を弱める →1点
- ⑤ (持木川流域の対策) 霞堤を設置／不連続の堤防を設置 →2点
- ⑥ (⑤の効果) 泥流を山腹(遊水地)にあふれさせる  
／泥流を切れた堤防から外に逃がすことで弱める →1点
- ③ (持木川流域の対策) 下流は堤防を設置／下流は流路を変更している →1点

問題Ⅱ (50点)

問1 16点 (各2点×8)

- a : 中国            b : インド        c : インドネシア  
d : ベトナム       e : タイ           f : アメリカ合衆国  
g : カナダ          h : フランス

問2 7点

新期造山帯に属するため急峻な山地が多く、水田に適する平野が乏しい。そのため、人口密度の高いジャワ島やバリ島などに、斜面を階段状に均して築いた棚田が多い。

【加点ポイント】 (★問1「c : インドネシア」の正否は不問とする)

- ① (棚田の特徴) 斜面に水田が並ぶ／水田を階段状に築く／山地に水田を作る →2点  
② (①の理由) 山地が多い／平野が少ない →1点  
③ (②の理由) 新期造山帯に属する →1点  
④ (棚田が発達している地域) ジャワ島／バリ島／ウブド／テガララン／ジャテルイ など →2点  
(※「ルソン島」はインドネシアではないので加点しない)  
⑤ (④に多い理由) 人口密度が高い／人口が多い／米の需要が高い →1点

問3 9点

カナダは、肥沃な黒土の分布するプレーリー北部の平原において、寒冷地に適する春小麦が栽培される。混合農業の盛んなフランスでは、家畜を飼育し、その糞を肥料として小麦と飼料作物が栽培される。

【指定語句】 

家畜	黒土	飼料作物	春小麦
----	----	------	-----

 4つ全て 下線付きで使用  
(下線付け忘れは、いくつあっても-1点)

【加点ポイント】 (※①②③は、問1「g : カナダ」の、  
④⑤⑥は、問1「h : フランス」の 加点を前提とする)

- ① (g : カナダは) 春小麦を栽培する／耐寒性の春小麦を栽培する →2点  
② (①の背景) 肥沃な黒土が分布する／肥沃なプレーリー土の黒土が分布する →1点  
③ (①の背景) 寒冷である／冷帯に属する／冬の寒さが厳しい →1点  
④ (h : フランスは) 小麦とともに飼料作物を栽培する →2点  
⑤ (④の特徴) 家畜の糞を肥料とする／家畜飼育と小麦栽培を組み合わせている →2点  
⑥ (④について) 混合農業が行われる →1点

問 4 3 点 ウ

問 5 8 点 (各 2 点 × 4)

カ：水力／水力発電 キ：地熱／地熱発電 ク：トウモロコシ ケ：サトウキビ

問 6 7 点

燃焼によって大気中に二酸化炭素が放出されるものの、原料となる植物は、光合成によって大気中の二酸化炭素を吸収しながら成長するため。

【加点ポイント】

- ① 原料に植物が用いられる → 3 点
- ② (①は) 成長 (生長) 時に二酸化炭素を吸収する／光合成で二酸化炭素を減らしている  
／燃焼時に排出される二酸化炭素は原料成長時の二酸化炭素吸収量で相殺される  
／原料成長時と燃焼時を合わせると大気中の二酸化炭素の総量は増えないと考えられる → 4 点  
(※「二酸化炭素」は「CO<sub>2</sub>」という表記でも可)

問題Ⅲ (50 点)

問 1 6 点 (各 2 点×3)

X : インド Y : メキシコ Z : 中国

問 2 4 点

B は フランス, C は イギリス である。いずれも旧植民地からの流入人口が多い。

【加点ポイント】

- ① B は フランス →1 点
- ② C は イギリス →1 点
- ③ (共通の理由) 旧植民地からの流入 (移民) が 多い →2 点

問 3 4 点

旧ユーゴスラビアが複数の国家に分裂する過程において, 内戦などから多くの難民が発生した。

【加点ポイント】 (A は ドイツ) \* (\* : 解答中で国名が間違っている場合は加点しない)

- ① (セルビアからの移民が多い理由として) 内戦 / 難民 →2 点
- ② (①の理由として) ユーゴスラビアの分裂 / ユーゴスラビアの解体  
/ ユーゴスラビアからの独立 →2 点

問 4 9 点

経済成長に伴って労働力が不足したことから, かつての植民地のラテンアメリカ諸国や EU に加盟した東欧諸国からの外国人労働者を受け入れるようになったから。

【加点ポイント】 (D は スペイン) \*

- ① (移民増加の理由) 労働力不足 / 外国人労働者を多く受け入れた →3 点
- ② (①の背景) 経済成長 / EU 他国が D 国に工場を移転させた →2 点
- ③ (移民の出身国) 旧植民地 / ラテンアメリカ諸国 →2 点
- ④ (移民の出身国) 東欧諸国 / EU への新規加盟国 →2 点

問 5 6 点

多数のオイルマネーをもとにした, 土木・建築事業が盛んであり, その労働力として 30~50 歳代の男性外国人労働者を受け入れているため。

【加点ポイント】 (F は サウジアラビア, H は アラブ首長国連邦) \*

- ① 土木・建築業の労働力 / 製造業の労働力 →3 点
- ② (①の背景) 多数のオイルマネー / 石油 (原油) 産業の発展  
/ 石油依存経済からの脱却 / 石油以外の産業の多角化 →3 点

問6 6点 (各2点×3)

a : 中国 d : フィリピン f : アメリカ合衆国

問7 7点

ともに労働力不足を解消するために、eからは出入国管理法を改正して日系移民の子孫を受け入れ、cからは技能実習生や留学生のほか、EPAを結んで看護師・介護福祉士などを受け入れたため。

【加点ポイント】 (eはブラジル, cはベトナム) \*

- ① (共通の理由) 労働力不足／労働力として受け入れ →1点
- ② (eの受け入れ方) 日系移民の子孫／日系3世まで／日系人を受け入れた →2点
- ③ (eの受け入れ方) 出入国管理法 (入管法) を改正 →1点
- ④ (cの受け入れ方) EPA (経済連携協定) を結んだ →2点
- ⑤ (cの受け入れ方) 技能実習生の受け入れ／留学生の受け入れ  
／看護・介護の分野で →1点

問8 2点 オーストラリア

問9 6点

両国には日本企業が多く進出しており、現地労働者の指導・管理や日本の事業所との連絡のために、日本から多くのビジネスマンが一定期間の転勤や出向の形で滞在するから。

【加点ポイント】 (イは中国, オはタイ) \*

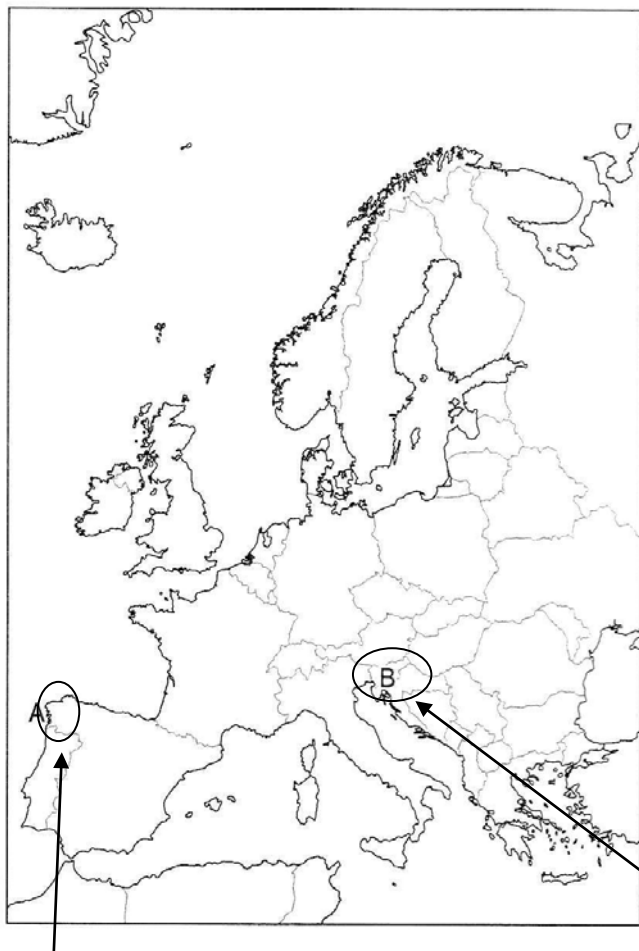
- ① (両国とも) 日本企業が多く進出／日本の現地法人が多い →3点
- ② 日本からの転勤者 (出向者) が多い／日本人は日本企業の仕事のため滞在している →2点
- ③ (②は) 一定期間の滞在後に帰国する／永住しない →1点



問題IV (50点)

問1 8点 (各2点×4)

A : リアス海岸／リアス式海岸 B : カルスト地形



A : この辺りの海岸を示していれば2点

B : この辺りを示していれば2点

問2(1) 8点 (各4点×2)

< a > 4点

エ。冬は平均気温が $-10^{\circ}\text{C}$ 前後と寒さが厳しく、 $10^{\circ}\text{C}$ 以上の月も3か月しかなく、タイガが広がる植生なので、林業や製紙パルプ業が盛んである。

【加点ポイント】 (★②③④は、①の可否を不問とする)

- ① (ハイサーグラフ) エ →1点
- ② (気候) 寒さが厳しい／気温が低い／冷帯に属する →1点
- ③ (産業) 林業／製紙パルプ業／製紙業 が盛ん →1点
- ④ (③の背景) タイガが広がる／針葉樹林が分布 →1点

< g > 4 点

ア。夏に高温乾燥となるので、オリーブやコルクがしなどの耐乾性の硬葉樹が栽培され、温暖湿潤な冬は冬小麦などが栽培される地中海式農業が行われている。

【加点ポイント】 (★②③は、①の可否を不問とする)

- ① (ハイサーグラフ) ア →1 点
- ② (気候) 夏は高温乾燥／冬は温暖湿潤／地中海性気候 →2 点
- ③ (産業) オリーブ／コルクがし／小麦 の栽培  
／地中海式農業 →1 点

問 2(2) 6 点

ウ。沖合を流れる暖流の北大西洋海流の上を吹いてくる偏西風の影響で、高緯度に位置するにもかかわらず、冬にあまり冷え込まない。また、偏西風のスカンディナヴィア山脈の風上になり、最少雨月降水量が 100 mm 以上と多いことから。

【加点ポイント】 (★②③④⑤⑥は、①の可否を不問とする)

- ① (ハイサーグラフ) ウ →1 点
- ② (気候の特徴) 冬にあまり冷え込まない／高緯度の割に気温が高い →1 点
- ③ (②の理由) 暖流／北大西洋海流 1 点
- ④ (②の理由) 偏西風 →1 点
- ⑤ (気候の特徴) 降水量が多い →1 点
- ⑥ (⑤の理由) 山脈の風上になる／地形性降雨が多い／湿った風が山脈にぶつかる →1 点

問 3 8 点 (各 4 点×2)

< ② > 4 点

オランダ。干拓地であるポルダーを利用して酪農を行い、チーズなどを生産する。

【加点ポイント】

- ① オランダ →2 点
- ② (酪農の特徴) 干拓地 (ポルダー) を利用  
／チーズ (バター) などを生産  
／輸出用の生産が多い →2 点

< ④ > 4 点

スイス。夏には高地で放牧し、冬には麓の村で舎飼いする移牧と呼ばれる飼育形態で酪農を行っている。

【加点ポイント】

- ① スイス →2 点
- ② (酪農の特徴) 夏には高地で放牧し冬は麓の村で舎飼いする／移牧を行う →2 点

問4(1) 4点(各2点×2) ⑤:ドイツ ⑦:フランス

問4(2) 4点

第3のイタリア(サードイタリア)とよばれており,中小企業や職人による伝統工芸が発達している。

【加点ポイント】

- ①(地域の名称) 第3のイタリア/サードイタリア →2点
- ②(①の特徴) 伝統工芸が発達/伝統技術を持つ職人が集積/職人技術と先端技術が結合  
/地場産業が発達/高級品(ブランド品)の生産 →2点

問5 10点(各2点×5)

- ⑨:スウェーデン ⑩:デンマーク ⑪:ノルウェー
- ⑫:フィンランド ⑬:アイスランド

問6 2点

年中,偏西風が吹いており,強風になることも少ないうえ,大半が平坦で偏西風をさえぎる向きにそびえる山脈も少ないから。

【加点ポイント】

- ① 偏西風が吹いている →1点
- ② 平坦な地形/平野が広い/山脈が少ない/風を遮る地形が少ない →1点